

江戸時代の道を求めて (四国遍路)

阿波から土佐まで

現代社会では、目出度く定年を迎えられ人生の節目に、御先祖の供養、深刻な病にかかってしまい治癒のため、ただ何となく等、様々な理由で遍路にでる。近頃では、自家用車やバスでの移動が人気ですが、お遍路が気軽に行ける観光地となったのは昭和になってからといわれる。また、死に装束である白衣を着るようになったのも昭和初期と言われる。それ以前は卒塔婆の代わりとなる金剛杖、棺桶の文字が書かれた菅笠を身にまといどこで死んでも成仏できるようにと覚悟していた。不運にも行き倒れた人に「遍路墓」と呼ばれるお墓を地元の人たちがつくった。

今も昔もお遍路に来る人はいろいろな事情があるようですが、札所の住職、地元の人たち、檀家さん、へんろみち保存協力会等の皆様方のお力で歩くことが出来たことに深く感謝感激しております。

1 番札所から 39 番延光寺先の伊予との国境まで、約 620 km 弱の記録です。

愛媛大学山川教授によると、遍路が江戸時代、四国以外から海を渡ってくるルートは、

- ①大坂から阿波徳島(海上152km)へ船で渡るルート、
- ②大坂から丸亀(海上200km)へ渡るルート、
- ③紀州加太から撫養(撫養町岡崎)に渡るルート(海上52km)、
- ④明石から淡路島に渡り、更に福良から撫養(海上12km)に渡るルート、
- ⑤備前国下津井から丸亀または多度津へ渡るルート、
- ⑥九州方面から伊予国三机、八幡浜に渡るルートがあった。

案内書によると、遍路は高野山から下ってきて紀伊水道を渡った阿波の撫養の港に一番近かったからここからスタートし、1 番札所霊山寺にした。

旧撫養街道遍路道を通り 1 番霊山寺。かたどおりの納経をし、寺をあとにする。本尊(阿弥陀如来座像)、本堂とも国宝。大師お手植えされた大杉(長寿杉)のある 2 番極楽寺。

石柱の指示通り本通りより右折。3 番金泉寺。本尊(釈迦如来座像)、境内に弁慶が持ち上げた力石。板野町那東(など)から黒谷にかけての遍路道はむかしをしのぶことができる数少ない貴重な区間で、江戸末期から明治にかけて作られた道標や墓標類が沢山残されており、盛んに霊場巡りが行われていたことを物語っている。果樹園や田園地帯をぬけると 4 番大日寺。五百羅漢を通り階段をおりと 5 番地藏寺。樹齢 800 年の大銀杏や水琴窟あり。

小柿休憩所通過し、6 番安楽寺。本尊は薬師如来座像、温泉のある宿坊。1 km くらいで 7 番十楽寺。8 番熊谷寺の仁王門は江戸期の山門として四国随一の規模を誇る。9 番法輪寺の本尊は涅槃釈迦如来(霊場でただ一つ)、秋月城跡を通り、10 番切幡寺本尊は千手観世音菩薩、450 段の石段を登ると、阿波市内の全景がよく見えた。清流吉野川にかかる大野島橋、川島潜水橋を渡り約 90 分で

11番藤井寺。臨濟宗、本尊は薬師如来座像、いよいよ焼山寺の遍路転がしです。藤井寺の本堂の脇から上り道があります。明日朝から歩く予定です。

一夜明けてびっくりぼん！大雪だ。宿屋の主人の機転で13番大日寺から巡拝だ。明治まで向かい側の一の宮神社が札所だった。正面入り口に「しあわせ観音」、14番に向かう途中、お遍路さんのお墓がある。自然石を見ながら参道を上りきると14番常楽寺。15番国分寺、本尊は弥勒菩薩座像(四国霊場中この寺のみ)、天平12年(740)塔の心柱の礎石あり、30分で16番観音寺。40分で17番井戸寺。四国最大の仁王像、大師が掘った井戸あり、雪が降ってきた。途中徳島市内にある阿波踊り会館に立ち寄る。徳島天神社で綺麗なお嬢様に千歳飴のお接待をうける、感謝。18番恩山寺。お釈迦様の十大弟子が安置。朱塗りの白鷺橋を渡ると19番立江寺。天候が安定したので、12番をめざす。最初の難所だ、11番本堂の左手が入口で、すぐ上り道には88ヶ所の本尊を映した祠が並ぶ。標高440mの長戸庵、標高500mの柳水庵、標高480mまで下り、標高745mの浄蓮庵に着く。標高450mの左右知(そうち)集落を通過し、標高700mの12番焼山寺に着く。樹齢300年の巨木に囲まれた幽玄な寺。雪道を滑らないよう下る。衛門三郎が逆打ちで空海に出会った杖杉庵(じょうしんあん)通過(標高440m)。1時間でバス停「焼崎」。玉ヶ峠を越え鮎喰川に合流、川に沿って進むと13番大日寺。

19番立江寺から出発。勝浦町生名より急な山道を2.9km上ると標高500mの20番鶴林寺。「水呑大師」から境内までの道約1.27kmが「鶴林寺道」と呼ばれ南北朝期に建てられた花崗岩製の丁石が11基残されており、江戸以前の古道である。6丁石を過ぎると石畳道となり約300m続く。境内にある3重塔は江戸末期に再建、県内ただ1棟。

鶴林寺から阿南市境までの約860mが「太龍寺道」。急勾配の斜面、階段が続く傍ら、には舟形の丁石や遍路墓又道標も自然景観も含め往時の面影を色濃く残している。21番太龍寺。本尊は虚空蔵菩薩、(福德、知恵をお授けになられる仏様)、太龍寺道を下り国道195号に合流、ヘンロ小屋第3号阿瀬比着。20分程で山道に着。大根峠を越え竹林を通り車道へ。22番平等寺。国定公園田井ノ浜休憩所で4人組のお母さんの接待をうける。感謝、俳句の遍路道を上り詰めると山座峠(さんざ)、山道から解放されると日和佐海岸、海亀の産卵地だ。まもなく23番薬王寺。本堂から日和佐湾や城が雨に煙って幻想的だ。国境の穴喰で泊まり、土佐に入る。「御蔵洞」は空海修行の地、その先案内柱に従い、急激な坂道を上っていく。室戸岬灯台の裏にある仁王門へ。24番最御崎寺。海沿いの国道55号に出る。25番津照寺(しんしょうじ)、漁民の航海の安全と豊漁を願い建立。国道より案内柱を見ながら緩い坂道を上る。26番金剛頂寺。林業で栄えた吉良川の町並み通過、室戸市田野町で本陣跡「岡御殿」見学。殿様の参勤交代の経路が展示。27番まで1.5kmと書かれた案内板から山道、つづら折りの坂道が続く。このあたりはったて(真縦)と呼ばれる遍路転がし。27番神峯寺。神峯神社本殿参拝。22号線より標柱通り右斜め前から参道を上ると28番大日寺。途中、竜馬脱藩の道、土佐北山街道の案内図をT氏(南国市西山)にいただいた。国分橋がかけられる前は地藏渡し、まもなく29番国分寺。田んぼ道を過ぎ、高知大学医学部、逢坂峠を通り30番善楽寺。隣の土佐一の宮神社が札所。昭和4年に善楽寺が再興。入口に5,6m近くもあろう11面観世音菩薩像、五台山への登り道は旧遍路道。牧野植物園を通り31番竹林寺。急な下りの石段に注意して進む。道標に従い32番禅師峰寺。本尊(11面観世音菩薩)、大師作国宝、船の安全祈願、浦戸湾、桂浜が雨の中でも見渡せた。無料の県営フェリー「種崎渡船場」から長浜まで5分で着。33番雪蹊寺、

戦国時代、月峰和尚が臨濟宗に改宗、長宗我部元親の菩提寺、信親公の墓あり1時間半で34番種間寺、高岡町の道から山の中腹に35番清瀧寺、六地藏すぎると、簡易88か所と本尊。大型車は乗り入れが出来ない。もと来た道を引き返し39号線から塚地峠へ、旧遍路道であり、高岡と宇佐を結ぶ生活道であった。360日は峠に行き清掃活動している地元の80歳の御老人に出会う。感謝。立派な宇佐大橋を渡る、昔は渡し舟があった、36番青龍寺、奥之院不動堂にも参拝。横波スカイライン経由でいく。

いよいよ安和から土佐の難所の峠越えにむかう。土讃線に沿って登っていく、やがて3尺の山道となり、マムシに出会う。自然豊かな遍路道は滝や石畳そしてがけ崩れで道が寸断された箇所もあった。焼坂峠(標高228m)を上りきり国道に出、川沿いの道から道標に従い、土佐往還そえみみず遍路道に進む。曲がりくねって進むみみずのさまに似ているからつけられた。江戸時代の道標、遍路墓、庵跡、明治まで茶店もあった。中世以前から明治中頃まで生活道であった。37番岩本寺。唯一、五体の本尊を安置する寺(不動明王、聖観世音菩薩、阿弥陀如来、薬師如来、地藏菩薩)。38番足摺岬まで100km。途中市野瀬遍路道を通る。四万十川は下田の渡しで行くつもりが波高く欠航。やむなく四万十大橋で渡る。新伊豆田トンネルを抜けず、伊豆田峠を越える旧遍路道を進む。昔の清水往還だ。地元の御老人が車をとめて言うには、昔、トンネルができる前は自転車をかっいで伊豆田峠を越えたと話してくれた。市野瀬には37,38,39番の3寺を結ぶ中間地に天和(1681~83)の頃、真念庵と呼ばれる地藏大師堂を建立。38番まで55基の丁石(道標石)が残る。(1丁=109m)。所々に足摺遍路道あり。久百々、大岐海岸、以布利遍路道。ジョン万次郎の待つ足摺岬に38番金剛福寺。中浜万次郎生誕の地、中浜へ。鍵掛に戻る。下ノ加江川に沿って歩く。本来の旧遍路道ではなかった。

宿毛市にはいる。39番延光寺。本尊 薬師如来。寺から標識に従い山道に入る。旧遍路道。20分程で国道に合流。松尾峠まで2.3kmと書かれた標柱の先上り坂になり山道に入る手前に「松尾坂口番所跡」。伊予と土佐を結ぶ重要な街道であったため、長宗我部の戦国末期から設置された。江戸時代、山内氏入国後も、重視され四国遍路もこと甲浦以外の土佐への出入りは許されなかった。文政時代の遍路墓、松並木の伐採跡、石畳、茶屋跡があり頂上には大師堂あとがあった。国境の石柱は伊予側のものは貞享4年(1687)の建立、土佐側のものは翌年に建てられた。阿波と土佐の遍路道はこれまで。

参考文献 森正人「四国遍路」中公新書 るるぶ「四国88ヶ所」JTB
「四国遍路ひとり歩き同行二人」へんろみち保存協会
ウキペディア